

令和 7 年
伊豆市議会 9 月定例会

一 般 質 問

令和 7 年 9 月

令和7年伊豆市議会 9 月定例会一般質問者と質問事項

9月3日（水）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ	一括/分割 予定時間
1	11 三田 忠男	1 7月30日の津波避難指示の対応について	市 長 教育長	2	分割 30分
		2 中伊豆地区の現況は計画通り進捗しているか	市 長 教育長	3	
2	5 黒須 淳美	伊豆市DX推進の意義と目指すところは	市 長	4	一括 20分
3	4 小川 多美子	1 デフリンピックについて	市 長 教育長	6	一括 30分
		2 震災への備えについて	市 長	7	
4	10 青木 靖	大規模災害への備えを確認する	市 長	8	一括 30分
5	6 鈴木 優治	1 防災対応について	市 長	11	一括 30分
		2 小学校の水泳授業について	教育長	12	

9月4日（木）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ	一括/分割 予定時間
6	1 尾垣 和則	空き家対策について	市 長	14	一括 30分
7	3 浅田 藤二	地元で出産できる環境整備と意識改革	市 長	17	一括 20分
8	8 波多野 靖明	1 老朽空き家除却補助制度の対象拡大について	市 長	19	一括 30分
		2 DMO（伊豆市産業振興協議会）の事業実績・進捗状況・今後の展開について	市 長	20	
9	12 小長谷 順二	1 カムチャツカ半島付近を震源とする巨大地震	市 長	21	一括 30分
		2 公共施設等で急増する金属盗難被害状況	市 長 教育長	21	
		3 半島振興法の延長・改定における新たな取り組み	市 長 教育長	22	
10	14 木村 建一	1 子どもが減少する課題にどう取り組むか	市 長	24	一括 30分
		2 伊豆中学校と慶応大が連携した防災教育	教育長	25	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7年 8月 18 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 11

議員名 三田忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 7月30日の 津波避難指示の 対応について	先日、ロシア・カムチャツカ半島付近で起きた巨大地震により津波注意報、その後の高さ3メートルの津波到来予想により津波警報の発令がされ、そのことにより、市から避難指示等情報が出されました。市としては、他にどのような対応がなされたのか、今後の課題が浮かび上がったのか以下伺います。 ① 「伊豆市地域防災計画」「伊豆市津波避難計画」等では、行政、教育機関、福祉避難所、自治会、公共交通機関、地域自主防災組織、市民等がどのような行動を起こすことになっているのか。 ② 実際の行動は、どうであったか。 ③ 取り組みの見直しなど、今後、必要なことがあったのか。 ④ 各津波避難タワーの活用状況や、避難者の意見や要望があったか。 ⑤ 個別避難計画の策定状況と、今回避難計画に基づく行動は行われたのか。それに対し、課題はあったのか。 ⑥ 今回、災害救助法等の改正により、災害派遣福祉チーム (DWA T) が位置づけられたが、伊豆市の各種災害計画に反映されているのか。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 中伊豆地区の 現況は計画通り進 捗しているか	令和4年12月議会で、質問していますが、この間の 進捗について現状と課題を伺います。 ① 中伊豆温泉病院移転後の周辺地区の活性化の動き (事業者進出、宅地造成、人口増、社会資本計画 等) ② 中伊豆温泉病院跡地の活用の動き ③ 橘保育園跡地活用の進捗状況 ④ わさびの郷構想と現状のわさびジターセンター、 萬城の滝キャンプ場の運営や経営状況 ⑤ 冷川地区の県道拡張計画 ⑥ 伊豆スカイラインゴルフ場の太陽光発電事業 ⑦ 中伊豆中学校跡地に中伊豆小学校移転と八幡地区 の周辺将来構想(道路網の整備を含めて)等	市長 教育長



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 19 日

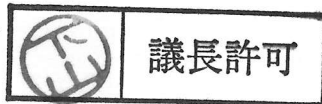
伊豆市議会議長 様

議席番号 5 議員名 黒須 淳美

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	② 一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 (
-------------------	--

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	タル技術活用で生産性改革』とあり、正に伊豆市が直面している未来、つまり働き手(職員)減少対策としてDXを推進することで、今後も持続可能な行政サービスを提供していくことが、ひいては市民サービス向上につながるという主旨だと思います。 以下について伺います。 ① 総務省が出している「自治体 DX 推進計画」を見ますと、この計画の対象期間は令和8年3月末までとあります。伊豆市としての取り組みの一区切りと考え、これまでの成果、そして将来的に目指すところは。 ② 現在、実施されている市民サービスへの手応え、またデジタルデバイドいわゆる情報格差への対応や改善点について。 ③ 令和5年5月に参画表明した「ノーコード宣言シティ」の内容と取り組み状況について。 ④ 市の業務におけるBPR（業務改革）の現況、またそれに伴う職員の意識変革について。 ⑤ DX 推進の意義について市民との共有はどのように図っていますか。 ⑥ 市長は令和4年の施政方針で「生産性革命」に徹する、と述べられました。翌年もあえて同じ方針を表明され、行政事務がより効果的、効率的なやり方に改善されることで職員の士気の向上につながり、その雰囲気市民にも伝わり明るい好循環を生む、このことが大切であると「生産性革命」の意義を説明されました。DX 推進に関してのこれまでの取り組みと今後の方向性について市長の見解を伺います。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 19 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 4 議員名 小川多美子

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (☐ 一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ ☐ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1.デフリンピックについて	聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」が、2ヵ月余り先の、11 月 15 日から日本で開催されます。 この大会はオリンピックやパラリンピックに比べると知名度は高くありませんが、1924 年にフランスで初めて開催され、夏季大会と冬季大会がそれぞれ 4 年ごとに行われています。今年は記念すべき 100 周年の大会となります。 伊豆市では、日本サイクルスポーツセンターを会場に、ロードとマウンテンバイクの 2 競技 6 種目が実施されます。「デフ」とは英語で「聞こえない・聞こえにくい」という意味であり、選手の皆さんは日常会話で主に手話を用いてコミュニケーションをされています。 こうした点を踏まえて、以下について伺います。 ① 100 周年という記念すべき大会において、自転車競技を迎える伊豆市として、どのようなおもてなしを考えているか。 ② 世界 70～80 の国・地域から、選手・役員など約 6,000 人の参加が予定されているとのこと。伊豆市に滞在する自転車競技の選手は、どの程度の人数になる見込みか。 ③ 出場する選手の聴力は全く聞こえないのか。それとも程度に幅があるか。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 震災への備えについて	④ 伊豆市には「手話言語条例」が制定されているが、今回のデフリンピックにどのように活用されるのか。 ⑤ 観客のアクセスについて、オリンピックやパラリンピックと同様に、修善寺駅から無料シャトルバスの運行予定はあるか。 ⑥ この大会を通じて、伊豆市の児童・生徒にとって「共生社会の実現」に資する教育的な機会となるか。 先日起きたカムチャツカ半島の地震では、太平洋沿岸の北から南にかけて広範囲に津波警報が発令され、沿岸住民に大きな不安を与えたことと思われます。また、30年以内に発生すると予測されている南海トラフ地震への備えも欠かせません。 さらに、今年は各地で大規模な洪水が相次ぎ、特に九州・中国・四国地方では線状降水帯による被害で多くの方々が生活の基盤を失いました。これらの災害は決して他人事ではなく、私たちの住む伊豆にも、いつ降りかかるかわからないと考えておくべきだと思います。 そこで、次の点について伺います。 ① 災害に対する備えは、どの程度用意されているか。 ② ひなた公園にできた危機管理センターをどのように使うか。 ③ 道路の寸断で陸の孤島になる地域があるかもしれないが、伊豆市ではドローンによる搜索などの状況把握を考えているか。 ④ 飲み水の確保は大丈夫か。 ⑤ 災害時の通電火災を防ぐ「感震ブレーカー」の普及促進にどのように取り組んでいるか。 ⑥ 南海トラフ地震に対しては、どのように想定しているか。	市長



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和7年 8月 19日

伊豆市議会議長 下山 祥二 様

議席番号 10 議員名 青 木 靖

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括) 分割) ※発言予定時間 (20分 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 大規模災害への備えを確認する	伊豆市では「災害死者ゼロを目指す防災」に取り組んでいます。100年から150年間隔で繰返し発生している南海トラフ地震は前回から80年が経過し、前々回の宝永地震の際は49日後に富士山が噴火しています。また、当市にも甚大な被害をもたらした狩野川台風からは67年が経過しようとしています。 狩野川台風以降、狩野川放水路の整備、直轄砂防事業による砂防堰堤の整備が進み、森林整備が進んでいることと相まって、大規模な水害や土砂災害を未然に防ぐことができていますが、日本国内において、近年、同じ場所で長時間大雨が続く傾向から、災害が激甚化しています。 私たちの伊豆市においては、防災機能を備えた「ひなた公園」の整備が進められていますが、能登半島で起きた地震と豪雨による災害の状況を踏まえて、現在、想定される自然災害に対して、どれだけの備えができているのか、どんな課題があるのか、又、その課題にどう対処すべきか確認させていただきたく、質問いたします。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	「災害対策基本法・災害救助法への対応」 ① 伊豆市においては、災害救助法に準じた避難、応急住宅、炊き出し・水、などの対応の状況はいかがですか。 「避難所の環境整備について」 ② 指定避難所の整備状況はいかがですか。旧小学校など古い施設は、雨漏り、防寒耐暑対策も必要と考えますがいかがですか。 ③ 指定避難所以外に、地域の集会場等を一時避難場所として整備する必要性については、どう考えていますか。 「食品、水の確保について」 ④ 伊豆市において、給水車の活用は、どの程度の能力を期待できますか。 ⑤ 大規模な地震が発生した場合、市内の上水道の給水は、どの程度影響を受け、何日程度の断水、又は、節水が必要と想定されますか。又、貯水池・浄水場・水道管の耐震性の現状はいかがですか。 「市民が自ら準備することが望ましい備蓄とは」 ⑥ 現在、市が保有する災害備蓄品の規模は、どの程度ですか。市として、今後どの程度まで増やしますか。 ⑦ 現実的に考えて、公助には限界があり、市の備蓄に全てを依存することには無理があると考えます。市として、市民に自宅での災害備蓄について、指針を示しませんか。また、自助として市民が備えるべき物について、水、食料、薬、衛生用品、簡易トイレなど、必要とされる量を市として、どのように考えていますか。	

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	「道路の寸断による孤立集落の発生について」 ⑧ 市として、自動車等で地上の移動が出来なくなり、孤立する可能性のある地域を把握、又は想定していますか。大雨による土砂崩れ、地震による土砂崩れ、それぞれ発生予測していますか。道路の寸断、孤立が生じた場合、72 時間以内の道路啓開にむけて、準備は進んでいますか。 「災害時の医療について」 ⑨ 災害救助法の視点から、伊豆市の災害発生時の医療対応はどのように準備が進められていますか。 ⑩ 「災害医療コーディネーター」はいますか。 「電力の確保について」 ⑪ 災害時の通信の確保の観点からも、携帯端末用の電源確保は重要と考えます。市としてできる電源確保の対応がありますか。 ⑫ 住宅用の蓄電池や EV、PHEV の車両があると、7 日間程度の家庭用電力を確保できる可能性があるといわれています。住宅用再生エネルギー機器設置費補助、住宅用 V2H 充放電設備設置費補助金の制度がありますが、金額や条件を変更し、使いやすくしていきませんか。 「自立的な災害対応に向けて市ができることは」 ⑬ 住民が避難所の運営を行うための取り組みは進んでいますか。避難情報の正しい判断、避難行動の妨げになる「正常性バイアス（自分は大丈夫という思い込み）」「同調性バイアス（周りに合わせてしまい正しい行動ができない）」についての啓発など、市として、行動心理学的なアプローチも行っていないませんか。	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 19 日

伊豆市議会議長 様

議席番号

6

議員名

鈴木 優 治

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 防災対応について	去る7月30日(水)カムチャツカ半島にてマグニチュード8.7の地震発生があり、その影響にて主に日本列島の太平洋側沿岸地域北海道から和歌山県に津波警報が発表されました。高いところで3メートル程度の津波が予想された事は記憶に新しいところです。県内には午前8時40分頃に津波注意報、9時40分頃に津波警報が発令されました。沿岸部の市町は避難指示を出して避難所を開設し、伊豆市は午前10時、災害対策本部を開設、午前10時15分、海岸部の住民、観光客に対し避難指示を出しました。住民や観光客らに身の安全を確保するよう呼びかけ、市が解放した避難所に避難者が来たところは、土肥支所、土肥小中一貫校、八木沢自主避難所の3カ所で、松原公園津波複合施設「テラッセ オレンジ トイ」、土肥マリンホテル、ホテル湯の花亭の3カ所には、海水浴客などの観光客が避難したようです。 30年以内に約80%の確率で発生するとされる「南海トラフ巨大地震」。国がまとめた新しい被害想定によると、神奈川県から鹿児島県にかけて、震度6弱以上の激しい揺れや、最大34メートルの大津波が発生。かつて経験したことのない規模の災害になる見込みであり、これを受けての災害対応の見直し、改善、変更が	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 小学校の水泳授業について	されるべきと考えますが、いかがでしょうか。 また、今回の津波警報の現状把握について、以下の点をお伺いいたします。 ① 災害対策本部の体制構築内容は。また、避難指示の連絡系統の確立は ② 各避難所の避難状況は ③ 避難所以外の避難場所の有無（高台等） ④ 災害対策本部への問い合わせ件数は ⑤ 土肥港における津波の観測は ⑥ 災害対策本部解除の時間は ⑦ 以上を踏まえて反省点、改善点は何かありますか 広報伊豆8月号には、 「小学校の水泳授業を『ふれっふ』で実施」 5つの市内小学校では「ふれっふ」を会場に、水泳専門のコーチによる水泳授業を行っています。子どもたちの泳力や気持ちに合わせた丁寧な指導が行われています。また、小学校のプール管理に掛かる費用の削減を図っています。 との記事が掲載されています。 そこで伺います。 ① 各小学校にて行われていた水泳授業を「ふれっふ」に会場を移した理由 ② 5つの市内小学校とは ③ 各学校からふれっふまでの移動方法は ④ ふれっふの運営は委託事業ですが水泳授業の費用は ⑤ プール管理に掛かる費用の削減効果は ⑥ 夏休み期間のプール利用の現状は ⑦ 中学校の水泳授業は	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	⑧ 児童たちの感想、反応は ⑨ ふれっふにおける一般利用者の反応は	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 13 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 1 議員名 尾垣和則

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
空き家対策について	全国的に空き家が深刻な問題となる中、総務省の令和5年住宅・土地統計調査によれば、全国の空き家戸数は約900万戸、空き家率は13.8%と過去最高を記録しています。 静岡県でみると、177万戸での空き家率は16.6%で、空き家戸数は約29.5万戸にのぼる状況です。 その一方で、伊豆市の現状は極めて厳しく、空き家戸数は5,680戸、空き家率は驚くべき32.9%に達しており、全国平均の2倍以上、県平均と比較しても約2倍と大きく上回っています。このような高率となる背景には、別荘や二次的住宅の統計上の空き家登録も大きく影響しているともみられます。 しかしこの状況は、単なる住宅の空きというだけでは片づけられず、倒壊や火災、不法侵入、景観破壊、敷地外への庭木等の飛び出しによる歩行者・車等の通行障害・事故誘発など、地域住民の安全・健康・生活環境に対し、重大な影響を及ぼしかねません。 実際の事例として、2024年7月、市は湯ヶ島地区の11年前から空き家となっていた築45年の木造住宅について、所有者が相続放棄しており対応が困難であったため、「略式代執行」によって除去に着手しました。火	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	災の被害もあり、軽自動車や原付バイク、樹木等を除去し、更地となりました。このように放置された空き家は、地域の安全と美観と生活環境を著しく損ねる恐れがあることを明確に示しています。また、伊豆市は2025年5月、株式会社クラッソーネと「空き家除去促進に係る連携協定」を締結しました。 以上のことを踏まえ、市の対応と今後の方向性について以下の質問をいたします。 ① 現状と課題の把握について、前述に示した伊豆市における現状について、別荘・売却・賃貸などの利用目的別の分類や、短期利用による統計上の空き家の内訳の過去5年間の推移を、分かる範囲でお伺いします。また、湯ヶ島地区のように危険性が高いため市が代執行を実施した空き家は現在1件のみと認識していますが、現在市が危険あるいは空き家や管理不全と判断する空き家はありますか。 ② 現行施策の評価について、現在、市が実施している空き家バンクや除去支援、リフォーム補助、利活用支援等、それぞれの施策の成果や効果はどの程度かお伺いします。加えて、始まったばかりですが、クラッソーネとの連携による「すまいの終活ナビ」や、ICT支援体制で期待する活用状況と具体的な取組内容、進捗状況や期待する効果についてお伺いします。 ③ 空き家の所有者に対して、空き家適正管理義務の周知方法はどのようになっているのか具体策をお伺いします。更に、売却・賃貸・解体・リノベーションなどの活用を希望する所有者への相談体制や支援制度の整備状況をお伺いします。併せて、相	

件 名	災の被害もあり、内 容	答 弁 を 求める者
	続放棄や高齢化など、管理困難な所有者向けの支援策についてお伺いします。 ④ 利活用の促進について、市として移住者向けへの住宅提供、地域産業や地域経済の活性化のための店舗・住宅提供などの可能性について、検討されていることや今後検討する予定等についてお伺いします。 ⑤ 今後の方針について、5年後までに向けた空き家対策の具体的目標や、重点施策をお伺いします。加えて、持続可能な取り組みのための財政・人員体制強化策などお考えがありましたらお伺いします。	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 18 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 3 議員名 浅 田 藤 二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分) ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
地元で出産できる環境整備と意識改革	私たちが、病院で出産することが決まりのように思い出したのはいつ頃からだったのでしょうか。 私は、母親の実家で、地元のお産婆さんに取り上げていただき、この世に生を受けました。私の年代から、上の方は多分、お産婆さん、今でいえば、助産師さんに取り上げていただいた方が多いのではないのでしょうか。 産科が伊豆市になくなり、出産する場所がなくなったかのようにとらえている方がいますが、市内には、助産院という他に誇れる、出産の場所があります。 ここに力を注ぐことで、安心して出産できる場所が伊豆市にはあると内外に示すことができ、子育て全力宣言につながっていくのではないのでしょうか。 私たち市民は、病院で出産することが常識ではなく、自分がそうだったように、家で、あるいは、近くの助産院で出産することが産後ケアを含め、安心であると感じ意識改革をしていかなければならないと思っています。 そこで、以下の件について質問します。 ① 安心して、地元で出産できる伊豆市の取り組み ② 市内で出産できることの周知	市長

	③ 助産院開院に関する行政の支援体制 ④ 性（生）教育への取り組み ⑤ 民間会社との助産師のための雇用連携(兼業支援) ⑥ 助産師研修制度の創設	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和7年8月19日

伊豆市議会議長 様

議席番号 8 議員名 波多野 靖明

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 老朽空き家除却補助制度の対象拡大について	伊豆市では、老朽化した空き家の除却を促進するため、「伊豆市老朽空家等除却支援事業補助金」が設けられています。この制度は、倒壊等の危険性のある空き家を対象に、所有者等による除却費用の一部を市が助成するものであり、老朽空き家の解消および地域の安全確保に資する重要な施策です。 しかしながら、当該補助制度の適用には「対象地域」の要件があり、市内に点在する多くの老朽空き家はその要件を満たさず、制度の利用ができないのではないのでしょうか。特に、対象外地域の空き家について、倒壊や衛生面、防犯上の観点から危険性があるにもかかわらず、制度の対象外とされている点は、市民から改善を求める声が上がっています。そこで、本補助制度の対象区域や条件について、より柔軟で実効性のある見直しが必要ではないかと考え、以下の点について質問します。 ① 現行の「伊豆市老朽空家等除却支援事業補助金」における対象要件(対象地域など)の設定理由と背景について伺います。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. DMO（伊豆市産業振興協議会）の事業実績・進行状況・今後の展開について	② より多くの市民が空き家除却に取り組みやすくするためにも、補助制度の対象要件の見直しを検討すべきと考えますが、市の見解を伺います。 伊豆市産業振興協議会は、観光庁が推進する地域DMOとして、観光マーケティング・商品開発・情報発信・連携促進等を担い、行政・観光協会・商工会・JAなどで構成される産業連携の要となり伊豆市内が活性化されることを目的とされています。 直近では、事業計画の下で「街なかにぎわい創造」「観光調査」「ブランド創生 (AMAGIFT)」「観光地再生」「会員連絡ツール導入」等が掲げられ、会員向けの連絡・申請・アンケート機能を備えた会員アプリの運用も進んでいます。 そこで、以下の点についてお聞きします。 ① DMOがこれまで手掛けた主なプロジェクトの過去の実績や実績について、可能な範囲で、名称・期間・関与団体（商工会・観光協会・JA 等）・成果を伺います。 ② 現在進行中の事業において、実施状況・進捗・課題を伺います。併せて、会員アプリにおける情報発信等の運用状況と今後の活用方針を伺います。 ③ 今後の展開について、来年度を含む今後のプロジェクトの想定する連携先と、その効果を伺います。	市 長



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和7年8月13日

伊豆市議会議長 様

議席番号 12 議員名 小長谷順二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. カムチャツカ半島付近を震源とする巨大地震	7月30日(水)8時24分、ロシア・カムチャツカ半島付近を震源とするマグニチュード8.7の地震が発生し、静岡県には最大3メートルの津波警報が発令されたため、当市は10時15分に、土肥屋形地区に対し、警戒レベル4「避難指示」を発令しました。 伊豆市の情報メールでは、土肥小中一貫校と土肥支所に避難誘導、海水浴客に対しては、上記の他にテラッセオレンジトイや海水浴場付近にある津波避難ビルに避難するよう指示を出しました。 真夏のトップシーズンに発生した津波警報に対して、当市の災害対策本部の立ち上げ、避難指示発令までの検討事項、避難所開設から警報解除・避難所閉鎖までの状況と、現時点における総括について伺います。	市長
2. 公共施設等で急増する金属盗難被害状況	全国各地で金属盗難が急増し、公共施設や企業に深刻な影響を及ぼしています。特に、銅板や金属ケーブルを狙った窃盗が増加しており、被害は、公共施設から太陽光発電施設まで、多岐に渡っています。公共施設のエアコンの室外機、給水管、グレーチング(側溝の蓋)や消火栓ボックス内の管そう、資材置き場などの金属部材も、転売を目的とした窃盗の対象となり、各地で被害が相次いでいます。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
3. 半島振興法の延長・改定における新たな取り組み	公共施設が特に金属盗難の標的になる背景は、施設の多くは広大な敷地を持ち、夜間には人の出入りが少ないため、犯行者が侵入しやすい環境にあることが挙げられます。公園や体育施設、学校などは、夜間に無人となることが多く、そのため盗難が発覚しづらい傾向があります。 グレーチング盗難は被害に遭った箇所が交通事故を引き起こす可能性、また、消防の管さうの盗難は火災の初期消火に重大な影響を及ぼします。一般的な防犯対策のほかに、未然防止という新たな観点で市として出来る事、取り組める事について考え、形にしていきたいという観点から次ことについて伺います。 ① 教育部施設を含む公共施設の金属類盗難の発生の実態（場所、物、被害件数等） ② 被害金額 ③ 被害状況の把握と紛失箇所の現状確認後の対処状況 ④ 実態分析に基づく盗難被害の未然防止対策は 令和7年4月に、半島振興法の一部を改正する法律が施行され、半島振興法の有効期限を令和6年度末から10年間延長するとともに、新たに国土交通大臣が半島振興対策実施地域の振興を図るための半島振興基本方針を定めること等が規定されました。 半島地域は、国土の保全、多様な文化の継承、自然との触れ合いの場及び機会の提供、食料の安定的な供給等、我が国における重要な役割を担っています。また、海・山・里と資源が多様で、海を通じた独自の歴史・文化を持ち、優れた自然景観などの観光資源に恵まれています。一方で、三方を海に囲まれ、平地に恵まれず、幹線交通体系から離れているなどの制約の下にあることから、産業基盤や生活環境の整備等	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	について課題があり、人口減少や高齢化が進行するなど厳しい状況にあります。 当市は「伊豆中南部地域」として、沼津市の一部（旧戸田村）、下田市そして賀茂郡の5町で指定されています。能登半島地震で改めて明らかになった、主要道路などの交通網の寸断、水道、電気、通信などのライフラインの甚大な損傷、木造家屋の倒壊や焼失、集落の孤立など同時多発的に発生した状況を踏まえ、その対策や半島ならではの地域振興などの課題解決に向けて半島振興法の延長と改定がなされたと思っています。半島振興法の延長・改定に伴う当市の今後の政策や事業実施について次の質問を致します。 ① 新設された基本理念には、「地方創生」、「魅力の増進」、「半島防災・国土強靱化」の3つの観点が示されていますが、半島振興法改正における当市の取り組みについて伺います。 ② 配慮事項に「半島地域の特殊事情に鑑みた学校教育及び社会教育（情報通信技術の活用を含む）の充実」「生涯学習の振興」「区域以外の子どもに対する半島地域の特性を生かした教育の提供」が追加されていますが、教育部としての見解を伺います。 ③ 静岡県が策定する半島振興計画の見直しについて県と当市との意見聴取はどのようにして行われているのか伺います。	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 7 年 8 月 19 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 14 議員名 木村建一

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 子どもが減少する課題にどう取り組むか	日本社会の重要な課題は、子どもの数が減り続けることです。子どもが減り、若者や子育て世代が減少してしまうと、 商店やスーパー、病院、交通機関など、生活に必要な施設や機能、サービスを維持することは難しくなります。伊豆市も同様ではないかなと考えます。国立社会保障・人口問題研究所地域別将来推計の静岡県下の中で伊豆市の将来の年少人口割合は厳しい推計が出ています。 ① 2023年の人口推計では、2020年の0歳から14歳までの人口を100とした場合、2040年は43.0、2050年は35.9と推計しています。これは静岡県の35の自治体の中で、5番目に低いという状況です。少子化対策に取り組んでいますが、第2期人口ビジョンの展望から見てこの将来推計をどうみていますか。 伊豆市も、少子化の課題を解決するために「子ども計画」「子育て全力宣言」に取り組んでいることを評価したうえで、 ② 移住を呼びこむ施策として始まった伊豆っ子未来応援金。「小学校入学時には教材費など出費が増える時期のため応援金があると負担が軽減します」とその	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	目的を明確にしています。応援金は移住者を増やす対策でしたが、すべての児童に応援しています。繰り返しの提案ですが、中学校入学時の応援金を検討しませんか。 ③ 高校生への就学援助金も検討しませんか。これまで伊豆箱根鉄道の通学費補助を提案してきましたが、就学など幅を広げた提案です。見解を求めます。 子どもを産み育てる不安、希望が持てない困難はどこにあるのか。主な原因は国の政治にあると考えていますが、解決の糸口が伊豆市子ども計画にありませんか。以下質問します。 ④ 働き方についてです。非正規雇用の不安があります。伊豆市役所の就労状況はいかがですか。また、不登校の児童生徒が増えることによっておきる親が休まざるをえない離職です。また、働く条件をどう作るか。市長が述べておられましたがこども園に預けている間の短時間の働ける環境づくりも重要だと思いがいかですか。 ⑤ 居住環境についてです。移住定住のためには住むために空き家バンク施策に注目していますが、以前お尋ねした八幡地区周辺、青羽根地区周辺、土肥地区中心部の移住・定住施策の取り組みについて伺います。	
2. 伊豆中学校と慶応大が連携した防災教育	① 学校教育法施行規則で中学校標準授業時数が決められています。時数のうち生徒たちが防災を学ぶ環境をどう確保しますか。 ② 伊豆中学校の学校づくりの7つのコンセプトの一つ「一人一人を大切にみんなが伸びる学校」を掲げ	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	ています。インクルーシブ教育を実践するための最新のデジタル技術を活用した防災教育をどのように取り入れますか。今後の展望についてもお尋ねします。	